

あなたにもできる「失敗しない録音の方法」

費用と労力をかけず、あなたの演奏の特徴を記録する

1. 録音するための機器

ICレコーダー（「音楽用」と書かれたもの） または スマートフォンに「音楽用」マイクをつける
*レコーダーもマイクも、1万円前後のもので充分使えます

2. 録音する部屋

外の音が聴こえず雑音の少ない部屋（エアコンなどは停止）で、適度な響きがあり、演奏者の前に2m以上余裕があれば、理想的（天井の高い部屋は、音が良い場合が多い）。

3. 標準的なマイクの位置と方向

クラリネット奏者から2メートルくらい離れ、高さ2m（～2.5m）くらいが望ましい。
マイクの方向が、マウスピースのあたりに向く様に調整。***カメラの三脚を活用**
「試し録音」をして、ピアノとのバランスやクラリネットの音色、録音レベルを確認
そして、聴衆の気持ちで、客観的に聴いてみてください



マイクは演奏者正面の延長線上にあり、マウスピースの方向に向いていること。



通常の演奏位置で、ピアノの音量バランスがとれるよう調整（ピアノのフタを閉めるなど）

4. 録音するときの注意

〈リニア PCM〉モードで録音のこと。

〈録音レベル〉をメーターや、良質のヘッドフォンなどで確認すること。

〈24bit〉モードで録音すると、多少レベルが低かったり、大きかったりしても問題は少ない。

一言 何度も録音する場合は「○回目」「テイク○」と声を入れておくと、後で演奏を選ぶ場合に便利。

5. 録音データをパソコンに送る

パソコンに送ります（ICレコーダーの場合は、USBケーブルが必要）。

保存するファイル形式は、必ずデータを圧縮しないWAV（=WAVE）または〈AIFF〉で。

6. 演奏を選ぶための編集

*編集しないのが音質も一番よい。しかし演奏開始前に何十秒も無音があるは、審査員のイライラを誘う。
無料の〈音楽編集ソフト〉が多数あります。

〈波形〉を見ながらできる適当なソフトで、

「演奏の始まる前」「終わった後」2～5秒程度の空白をつけて編集。

一言 この後、良質なヘッドフォンやコンポで再生して確認。

最後に CD-R にコピー（焼く）。CD 面に、名前を記入。そしてコンクール事務局に送る